

令和7年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書

－概要版－

令和8年3月

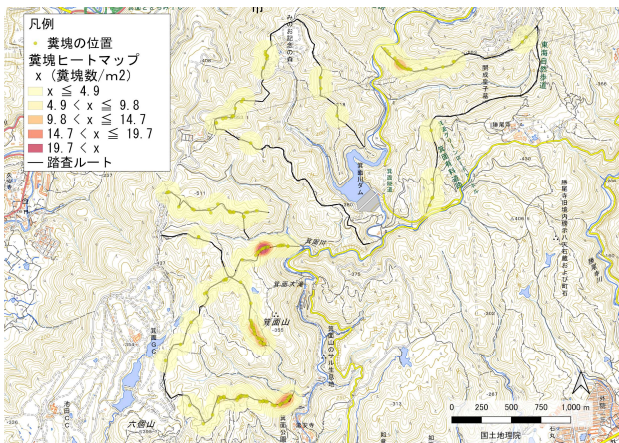
近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

糞塊密度調査

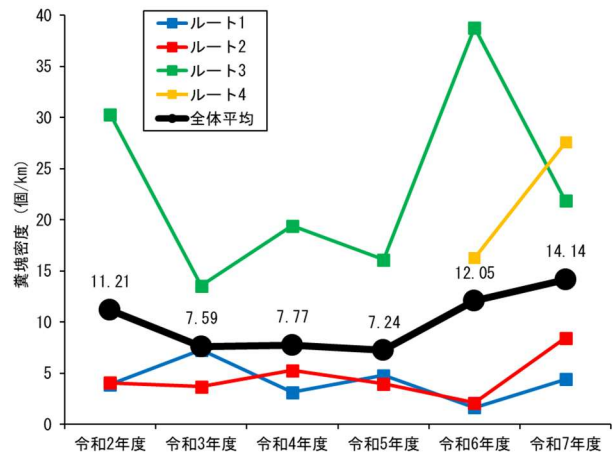
令和2年度からシカの生息動向を把握することを目的に、糞塊密度調査を開始した。糞塊密度調査は、国有林の主要な尾根を踏査し、10粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を記録した。

結果

- ・ 箕面国有林全体ではシカの糞塊が少なかったが、一部の地域に糞塊が集中していた。
- ・ 国有林全体では、糞塊密度が昨年度の12.05個/kmから14.14個/kmにやや増加していた。



確認された10粒以上糞塊の位置



糞塊密度の経年変化

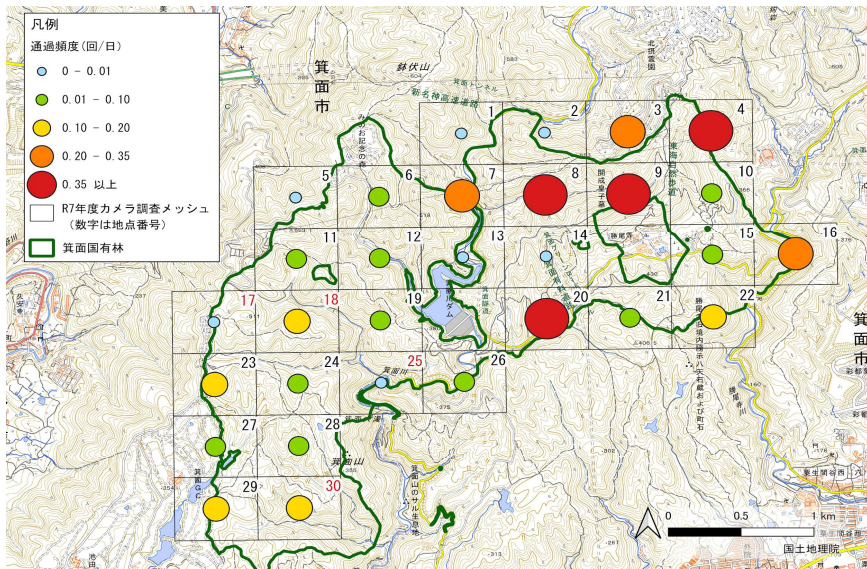
センサーカメラによる撮影頻度

シカ生息状況のより詳細な把握のため、箕面国有林内の30地点でセンサーカメラ調査を実施した。

※通過頻度とは、1日当たり、シカがセンサーカメラ前の検出区画を通過した回数を示す。

結果

- ・ 通過頻度は0～0.73頭/日であり、メッシュ間での通過頻度の差は大きかった。
- ・ 特に箕面国有林北東部で通過頻度が高い傾向にあった。
- ・ 全体としての通過頻度は、令和5・6年度ともに約0.18頭/日だったが、令和7年度は約0.15頭/日と低下した。
- ・ シカの撮影がなかった地点数は、令和5年度が12地点だったのに対し、令和6年度と令和7年度は5地点だった。
- ・ 地点番号16と30の通過頻度は、令和5・6年度に0.35頭/日以上と高かったが、令和7年度は地点番号16が0.26頭/日、地点番号30が0.20頭/日と低下した。
- ・ 一方で地点番号3、4、8、9、10は令和6年度よりも通過頻度が高かった。
- ・ 通過頻度が比較的高い0.20頭/日以上メッシュ数は、令和5・6年度が6メッシュであるのに対し、令和7年度は7メッシュに増加している。



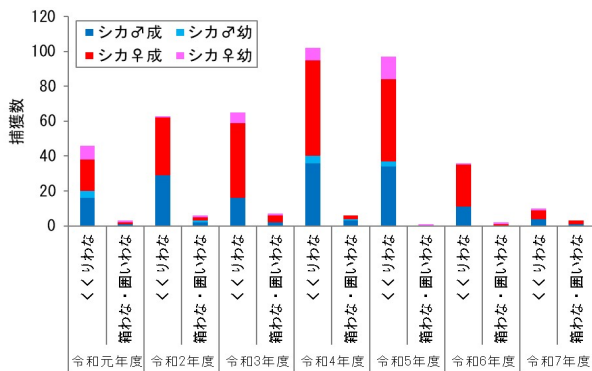
調査対象メッシュにおけるシカ通過頻度の階級区分図
メッシュ番号赤字は稼働日数 30 日以下。

捕獲情報分析

捕獲個体数や捕獲効率のモニタリングの継続は、個体群動態把握のための指標の1つとなる。

結果

- ・令和7年度は、シカ合計13頭を捕獲できた。
- ・捕獲効率（捕獲努力量あたりの捕獲数）は、箱わな及び囲いわなが平均0.68頭/100台（林班別：0～1.16）、くくりわなが平均0.27頭/100台（林班別：0～0.50）であった。



わな種ごと性別ごとの捕獲頭数

林班ごとの捕獲効率（令和7年度）

○箱わな及び囲いわな

林班	設置台日数	捕獲数	捕獲効率
269 林班	96	0	0
270 林班	171	1	0.58
275 林班	172	2	1.16

○くくりわな

林班	設置台日数	捕獲数	捕獲効率
268 林班	912	4	0.44
269 林班	772	0	0
275 林班	601	3	0.50
276 林班	1398	3	0.21

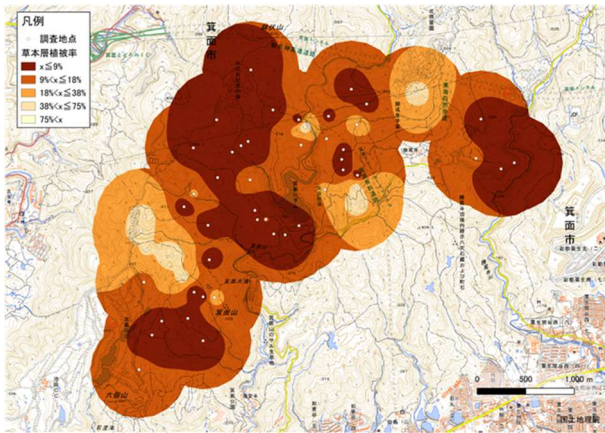
ニホンジカによる森林植生衰退状況調査

箕面国有林のシカの影響を広域で把握することを目的に、箕面国有林全域において令和6年度から2年にかけて森林植生衰退状況調査と食痕履歴法による調査を行った。令和6年度の結果を合わせて示す。

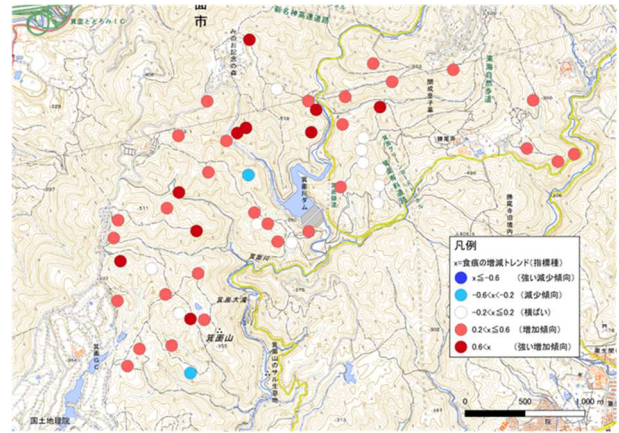
結果

- ・53地点で調査し、草本層の植被率は、勝尾寺の東側とみのお記念の森周辺、箕面山の西側など捕獲があまりされていない地域だった。

- ・令和2・3年度調査と比較すると、草本層において箕面川ダムの東側は衰退傾向がみられ、みのお記念の森周辺ではほとんど変化がなく、箕面川ダムの南西側では回復傾向がみられた。
- ・箕面国有林においては、指標種としてヒサカキ、ヒイラギ、ソヨゴ、ヤブツバキが適していると考えられた。
- ・食痕が減少傾向の地点はごく一部であり、全体的に増加傾向が強かった。



草本層植被率のIDW法による空間補間結果



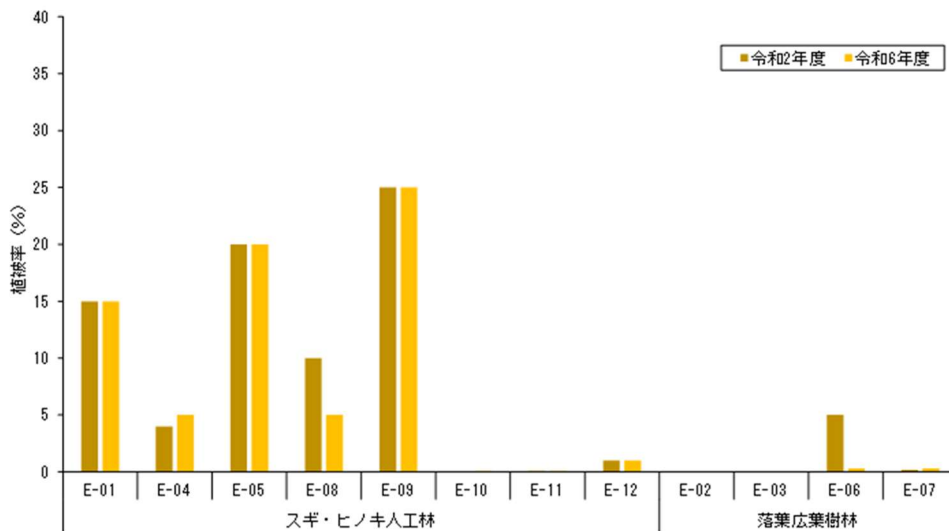
各地点の食痕の増減トレンド（指標種）

固定プロット森林影響調査

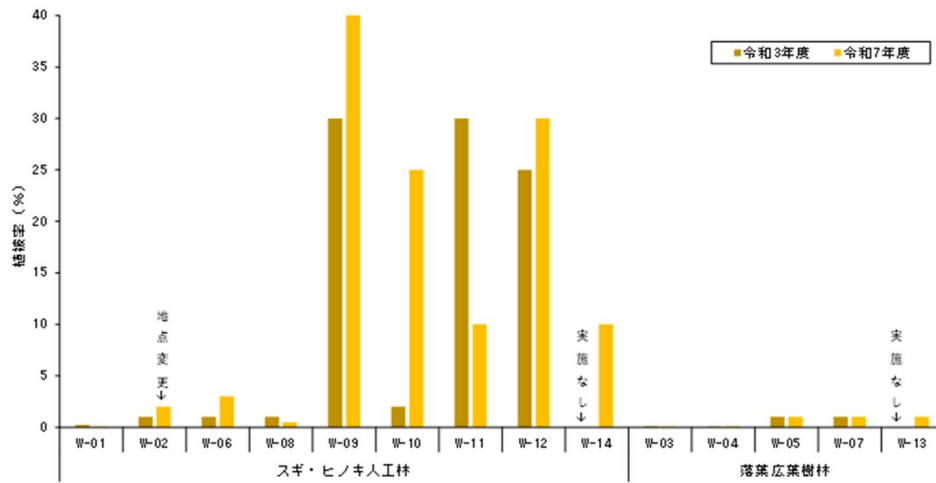
シカの植生への影響について定量的なモニタリング調査を行うため、森林植生衰退状況調査を実施した調査地のうち26カ所に固定プロットを設置し、令和6年度から2年にかけて固定プロット森林影響調査を実施した。

結果

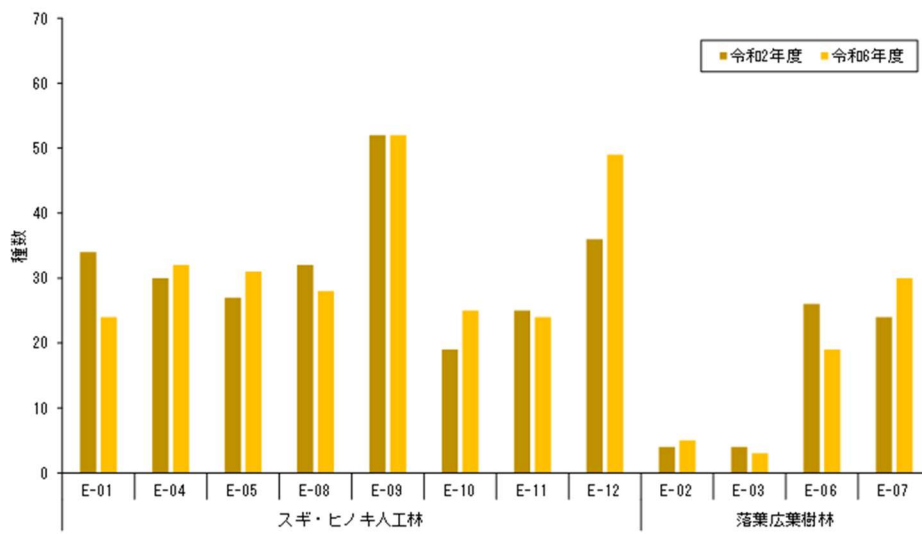
- ・令和2・3年度調査と比較すると、草本層の植被率は、9地点増加し、6地点が減少したが、シカの嗜好性が中程度の植物種の状況に左右されていた。
- ・草本層は、種数が増加した地点が10カ所、減少した地点が13カ所あったが、どの地点も双葉の状態での増加であり、これらの植物が成長できるかどうかは不明である。
- ・箕面国有林の特に落葉広葉樹林において、種の多様性が著しく低いことが示唆された。



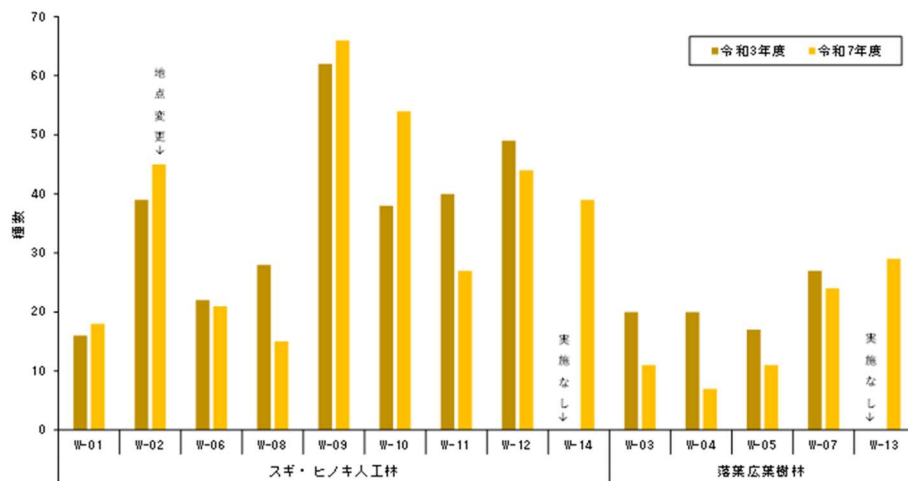
調査地ごとの草本層の植被率（令和2年度・令和6年度）



調査地ごとの草本層の植被率（令和3年度・令和7年度）



調査地ごとの草本層の種数（令和2年度・令和6年度）



調査地ごとの草本層の種数（令和3年度・令和7年度）